

県議会公報

2016年3月③

日本共産党 岡山県議会議員団

岡山市北区内山下2-4-6 岡山県議会内

TEL 086(226)7412

FAX 086(231)2187

森脇ひさき
氏平みほ子
すます伸子

2月議会

強引な病床削減やめよ

医療計画見直しで氏平県議が質問



氏平みほ子県議は、医療介護総合確保推進法により策定される「地域医療構想」について、強引な病床削減をしないよう求めました。

稼働していない病床

国が示した計算によると、岡山県では2025年までに4046床削減とされています。氏平県議は、現在稼働していない病床数とその削減計画について質問。何らかの理由で稼働していない病床は2005床もあることが明らかになりました。この廃止や転換については、「各医療機関の自主的な判断を促す」と答弁しました。

認知症への支援強化を

増えている認知症への支援について氏平県議は、初期の診断、サポーター養成、電話相談などの充実を求めました。

初期の診断のため、県では「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を実施していますが、研修を修了した医師は約15%にとどまっていることが明らかになり、氏平県議はさらに受講をすすめること、診断に対する診療報酬の引き上げを国に求めるよう要望しました。

認知症サポーターについて保健福祉部長は、「引き続きキヤラバンメイトや認知症サポーターの養成に取り組みとともに、連絡会を開催し、認知症カフェや地域の見守りネットワークでの活動例、職域における先進的な取り組み事例の紹介などを行い、認知症サポーター等による活動の充実をはかる」と答弁しました。

認知症コールセンター（電話相談）について知事は、「現在の体制により、家族などの悩みを丁寧に傾聴し、適切な助言を行うことができています。拡充は考えていない。専門的な医療相談を行う認知症疾患医療センターとの役割分担と連携のもと、相談事業を適切に運営」と答えました。氏平県議は、「電話相談は困難を抱え疲れ切った家族のよりどころとなっている。今後も現場の声もしっかりと聞いて必要な対応を」求めました。

慢性期病床の削減で行き場がなくなる

慢性期病床は、高齢者が増加するにもかかわらず県全体で1626床も削減する計画について、氏平県議は「医療依存度の高い患者は介護施設での受け入れが困難。介護施設では、介護報酬引き下げで益々人材不足。高齢者の行き場がなくなる」と指摘しました。

保健福祉部長は、「地域包括ケアシステムの構築を促進するとともに、慢性期病床が適切に配置されるよう、医療関係者や市町村、介護保険関係者と十分協議する」と答弁。氏平県議は、「在宅を支える医師や看護師、介護士などが不足している問題も指摘し、改善を求めました。」

待機児解消の緊急対策を

保育園への入園を希望しても入れない待機児の急増が社会問題になっています。岡山県でも1000人を超す（岡山市は1400人以上）子どもたちが入園待ち。その母親たちは、働きたくても働けない、費用がかかる一時保育の利用か、無認可保育所を選択しなければなりません。

日本共産党は、放置できない「緊急事態」と認識し国の支援をおこなうよう田村智子参院議員が予算委員会でとりあげました。これをうけ県議団は3月18日、市町村への支援や保育士確保など県としても緊急対策を講じるよう申し入れをおこないました。

申し入れは、①市町村が公共施設などを活用して緊急的な保育を実施したり、保育園の分園や改修をおこなう際の財政支援、②やむなく一時保育や無認可施設を選択した場合の費用補助、③看護師確保のための処遇改善、④雇い止めなど雇用面での不利益をうけないよう関係機関に要請することなどです。

応対した子ども未来課長は、「真剣に受け止め、できることをやっけていきたい」とのべました。

